

令和3年8月細砂通過放流の経過について（速報）

令和3年8月10日

連携排砂実施機関
国土交通省北陸地方整備局
関西電力株式会社

令和3年度 細砂通過放流について

1. 目的

出し平ダムでは主に排砂ゲート、宇奈月ダムでは水位低下用ゲートを用いて、流入する細かな土砂をできるだけ放流する。また、堆砂面付近の水の流れにより底質の改善を促す。

2. 実施基準

①梅雨期間

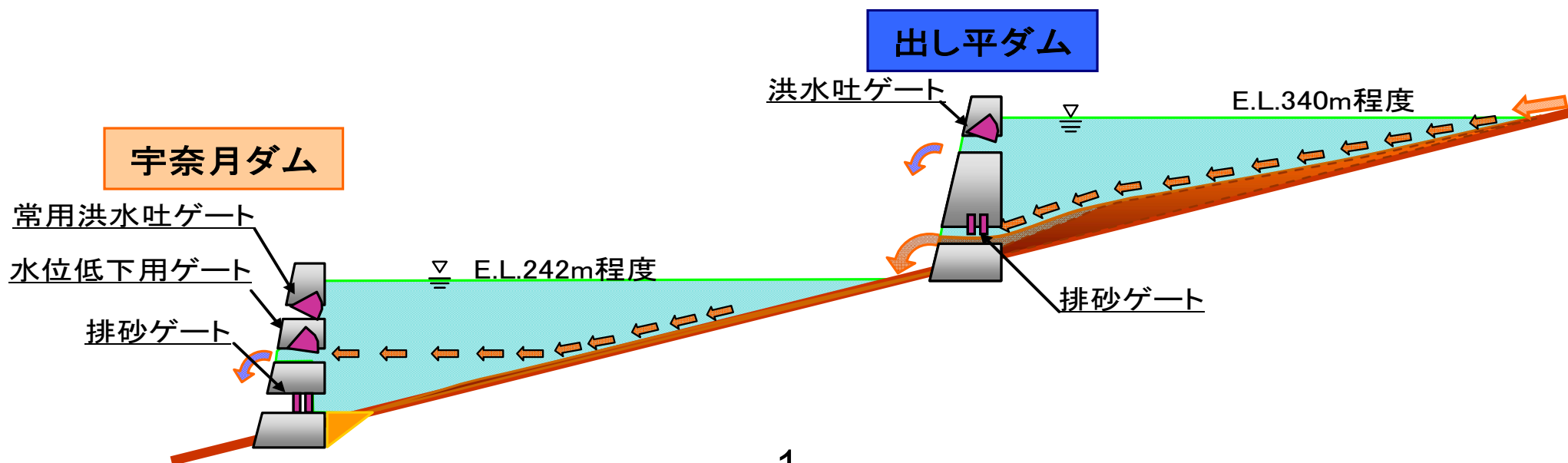
排砂後に、出し平ダムへの流入予測において、 $480\text{ m}^3/\text{s}$ を超過する可能性があり、かつダム流入量が出し平ダムで $300\text{ m}^3/\text{s}$ 、宇奈月ダムで $400\text{ m}^3/\text{s}$ のいずれかを上回る出水時に実施。

②梅雨明後

排砂後に、ダム流入量が出し平ダムで $300\text{ m}^3/\text{s}$ 、宇奈月ダムで $400\text{ m}^3/\text{s}$ のいずれかを上回る出水時に実施。

3. 実施方法

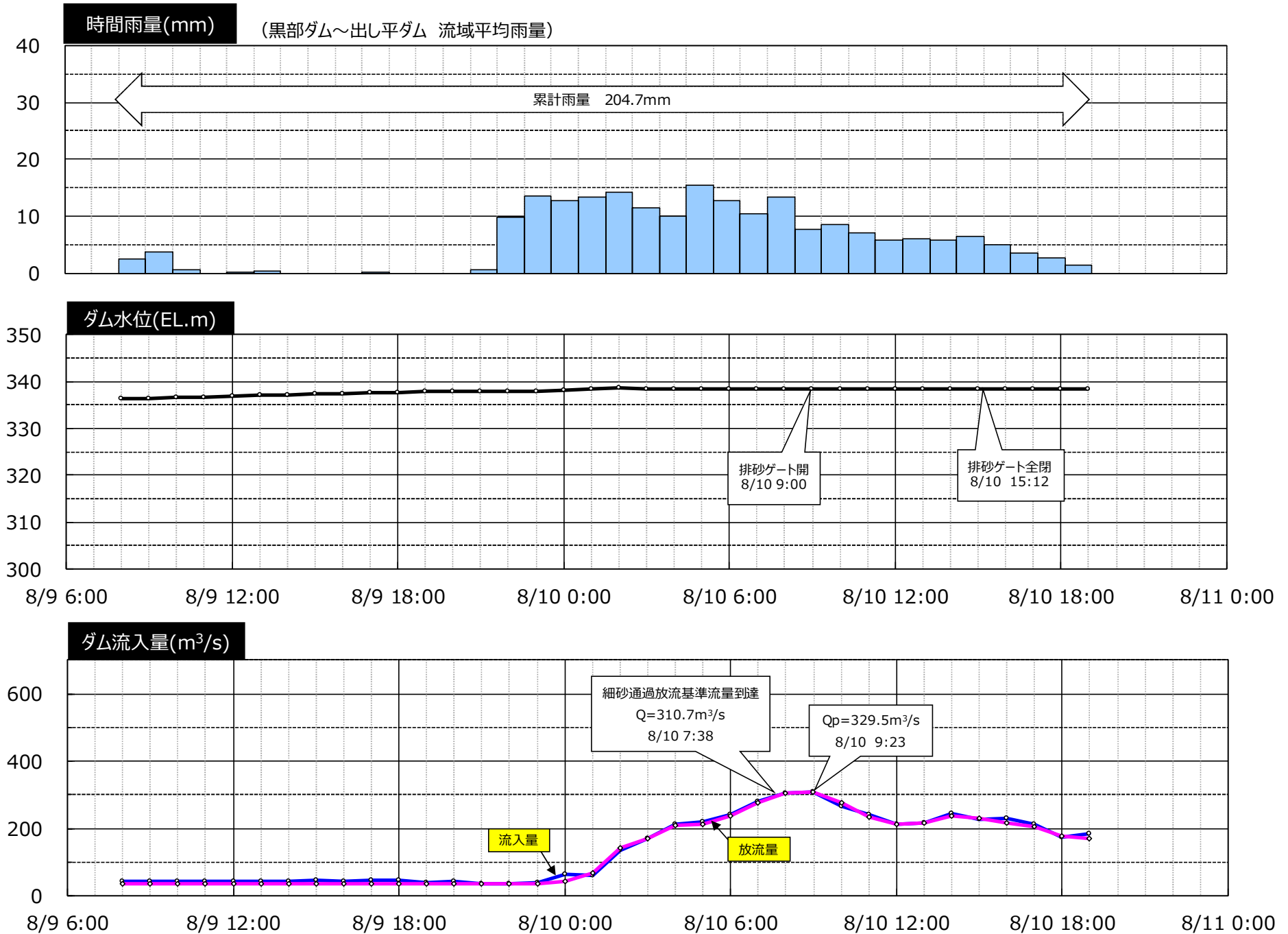
両ダムとも貯水位を高水位で保持したまま、出し平ダムでは主に排砂ゲート、宇奈月ダムは出洪水の調節完了後、水位低下用ゲートを開ける。なお、細砂通過放流において通砂実施基準流量に達しない場合の終了は、ダム流入量及びダム下流の濁度等を勘案し、実施機関で適宜判断する。また、細砂通過放流中において通砂実施基準流量を上回る流量に達した場合には、従来の通砂に移行できるものとする。



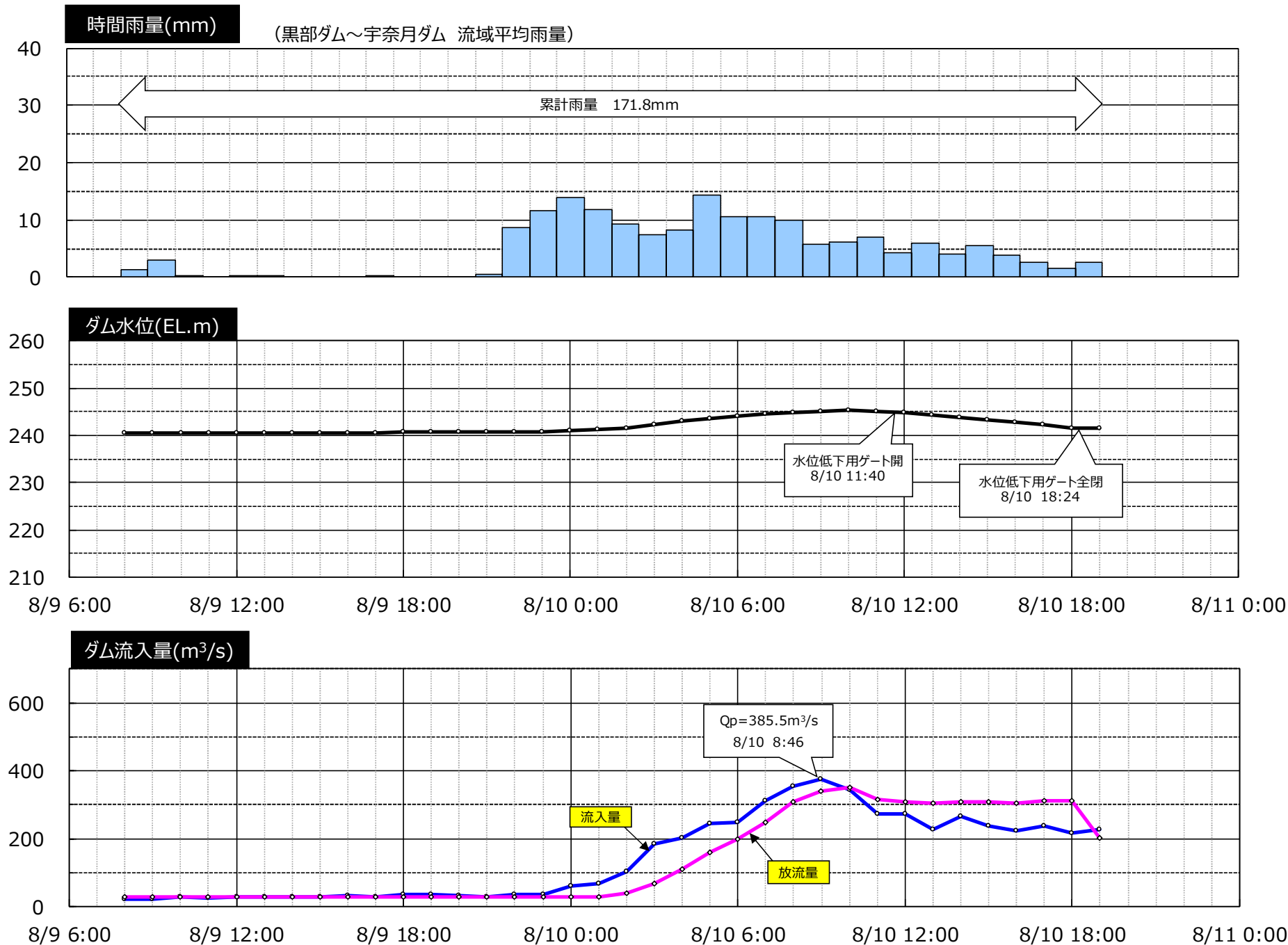
令和3年度細砂通過放流の実施経過

日	時	出し平ダム	宇奈月ダム	備考
8月10日	3:30	細砂通過放流準備体制入り		
	7:38	細砂通過放流基準流入量確認 ($Q_{in} \geq 300 \text{ m}^3/\text{s}$)		出し平ダム $Q_{in} = 310.7 \text{ m}^3/\text{s}$
	7:45	細砂通過放流実施決定		
		連携排砂実施機関発足		
	8:46		ピーク流入量確認 ($Q_p = 385.5 \text{ m}^3/\text{s}$)	
	9:00	↑ 排砂ゲート開操作開始		
	9:23	ピーク流入量確認 ($Q_p = 329.5 \text{ m}^3/\text{s}$)		
	11:40	連携排砂連絡調整本部発足		
	11:40	ゲート放流時間 6時間12分経過	水位低下用ゲート開操作開始	宇奈月ダム貯水位確認 (EL=245.0m以下)
	15:12	↓ 排砂ゲート全閉		濁度観測結果により操作終了
18:24		水位低下用ゲート全閉	ゲート放流時間 6時間44分経過	
18:24	連携排砂実施機関・連携排砂連絡調整本部解散			

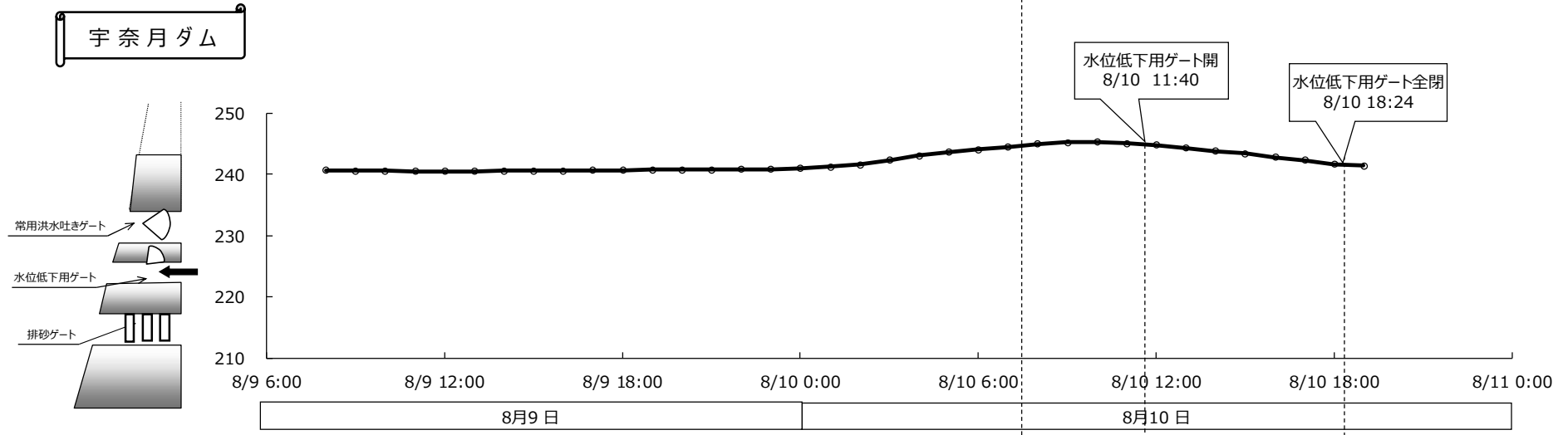
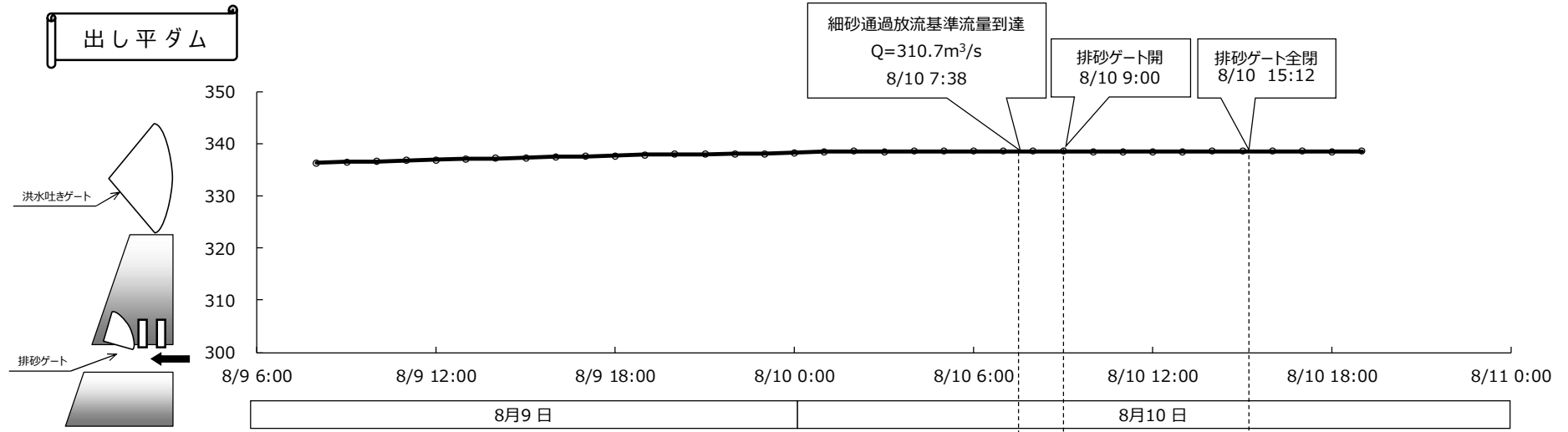
出し平ダム水文データ (令和3年細砂通過放流：8月9日～8月10日)



宇奈月ダム水文データ (令和3年細砂通過放流：8月9日～8月10日)

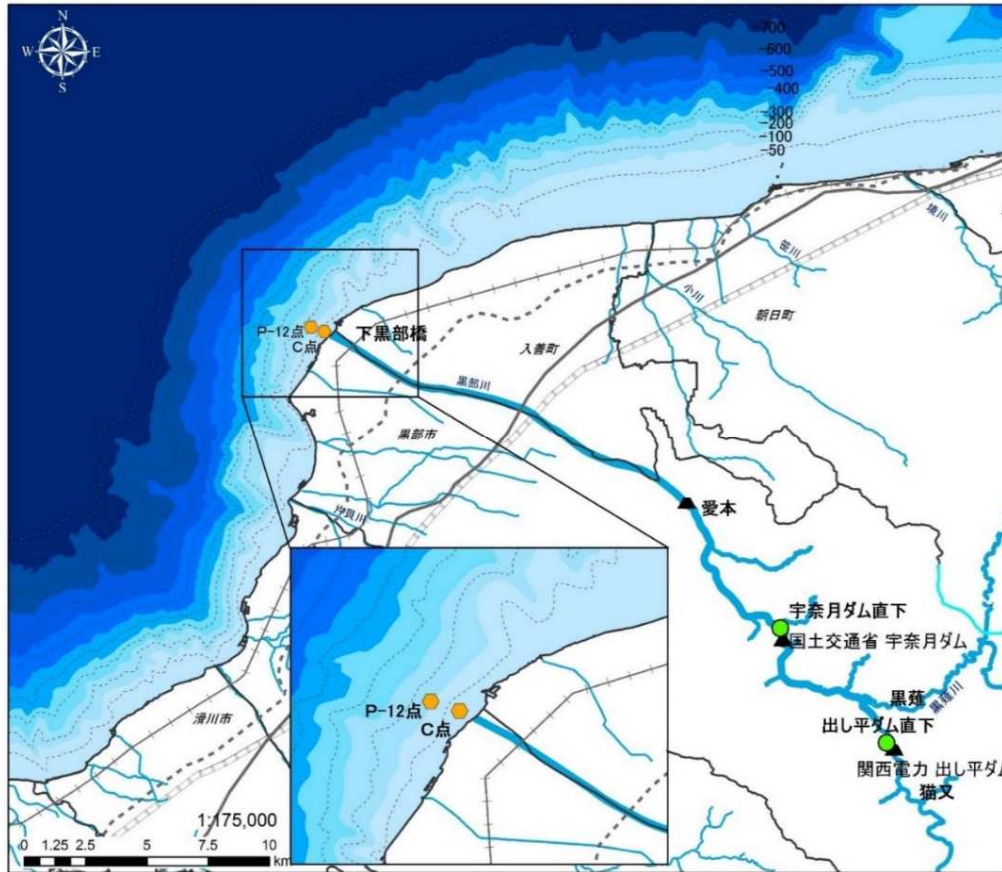


細砂通過放流の状況（両ダム水位の模式図） 8月9日～8月10日

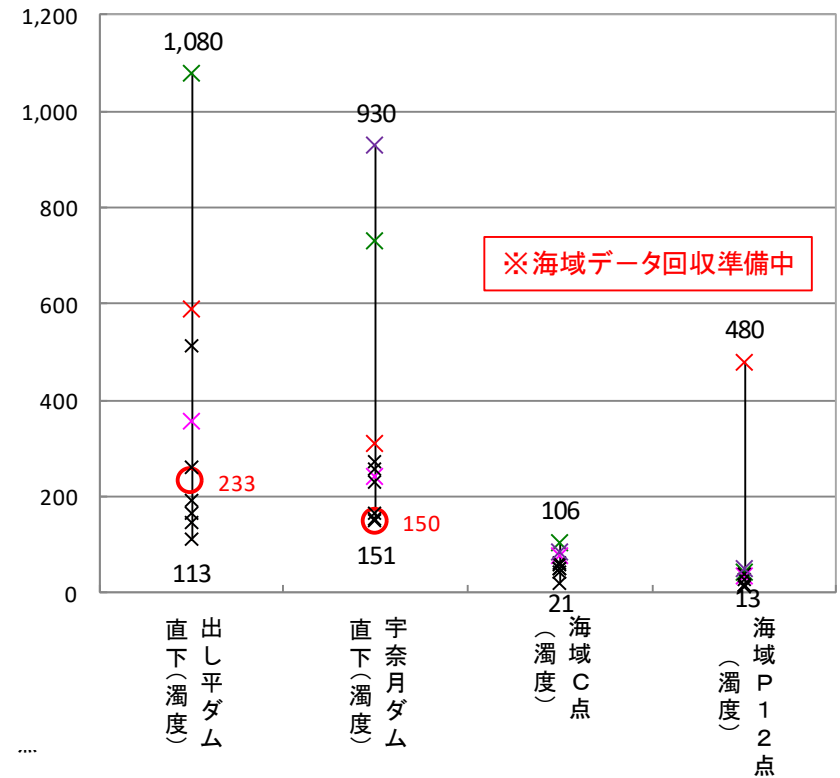


10時間46分

細砂通過放流 水質調査（濁度自動観測）



濁度最大値（度）



【凡例】 変動幅の最大値 : 平成23年以降の細砂通過放流中調査結果の変動幅
 変動幅の最小値 (平成23年6回、平成25年1回、平成27年1回、平成30年1回、令和元年1回)
 ※平成30年の出し平ダム、令和元年の海域C点は欠測

× : H23年の観測最大値 × : H30年の観測最大値
 × : H25年の観測最大値 × : R 1年の観測最大値
 × : H27年の観測最大値

○ : R3.8月細砂通過放流時(今回)の観測最大値
 グラフ中の数値はR3年の観測値

※海域C点およびP12点の観測最大値は、宇奈月ダムからの流程時間を考慮して、宇奈月ダム水位低下用G開操作後の4時間後における正時から水位低下用G全閉後の4時間後における正時までから算出している。